

東京府立西  
部  
民法  
第十一

東京府立西	
部	部
部	部
部	部

CF2  
3  
07

共十六卷

明治二十九年未刊行

文部少博士箕作麟祥口譯

以上華筆受

仙蘭西

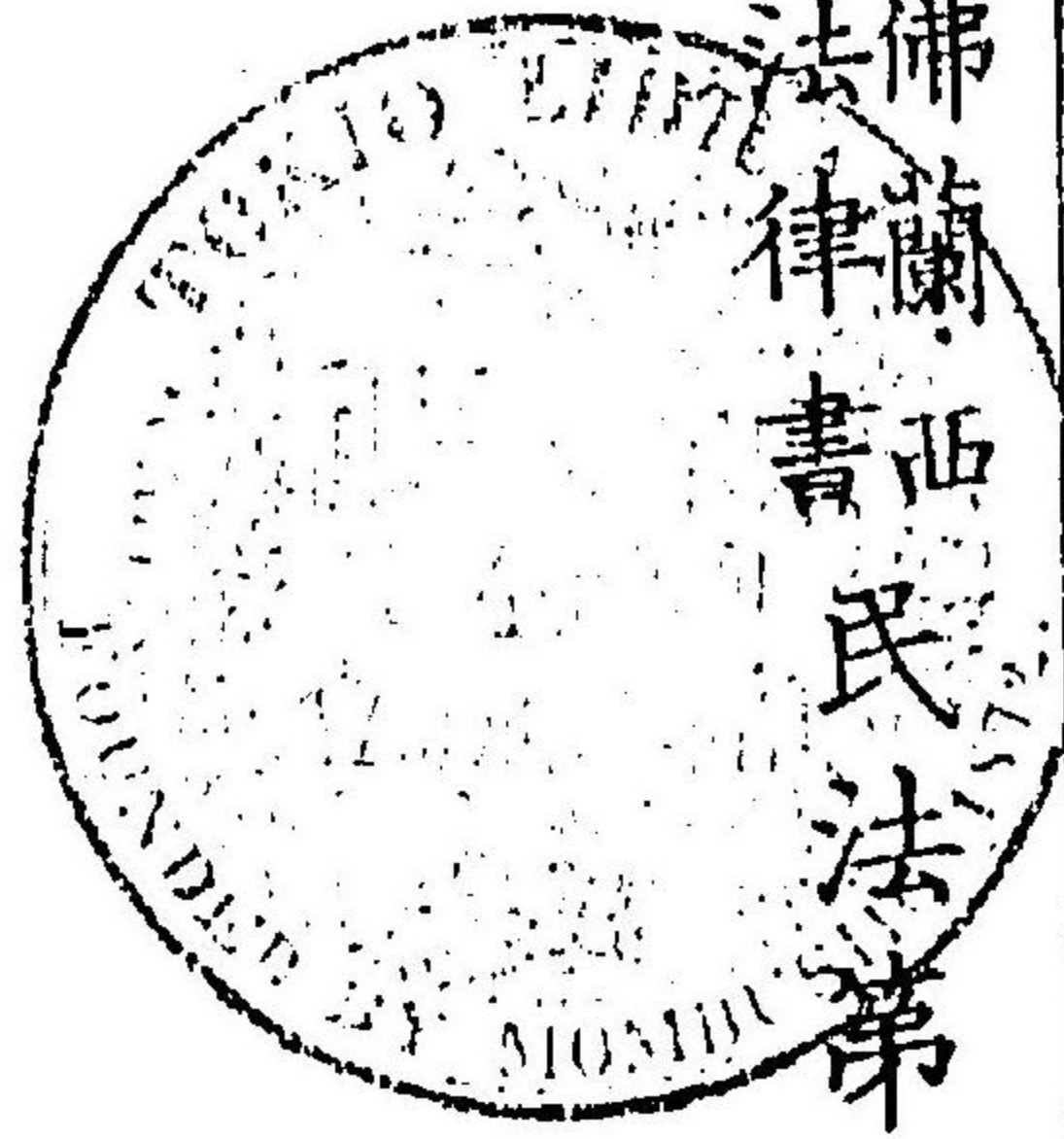
法律書

民法

文部省

CF2  
3  
07

佛蘭西民法第十一



明治九年文部省交付

文部少博士箕作麟祥口譯

○第二則 契約ヨリ生スル財産ノ共

通法律上ノ財産ノ共通ニ更改シ

又ハ除去ス可キ契約

第一千四百九十七條 夫婦ハ第一千三百八十七條

第一千三百八十八條第一千三百八十九條第一千三

百九十條ニ記シタル所ニ背カサル契約ヲ為

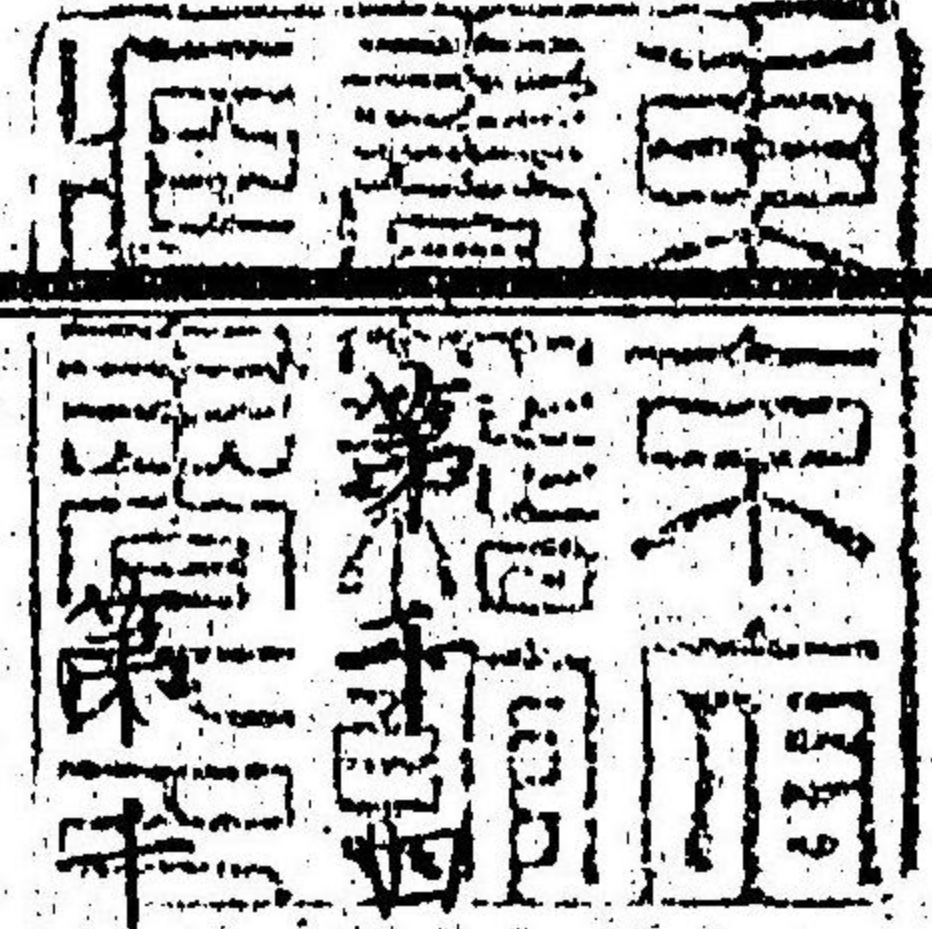


佛蘭西民法

第百九十七條

文部省

CF2  
3  
07



佛蘭西法律書  
民法第十一

文部少博士箕作麟祥口譯

明治九年文部省交付

○第二則 契約ヨリ生スル財産ノ共

通法律上ノ財産ノ共通ニ更改シ

又ハ除去云可キ契約

百九十七條 夫婦ハ第一千三百八十七條

三百八十八條第一千三百八十九條第一千三

百九十條ニ記シタル所ニ背カサル契約ヲ為

佛蘭西民法

第二卷第二章第一節

文部省

明治九年未刊行

文部少博士箕作麟祥口譯

以上筆筆受

佛蘭西

法律書

民法

文部省

レテ法律上ノ財産ノ共通ヲ更改スルコトヲ得  
可レ

其更改ノ法方中ニテ平常最モ多ク行ル、所  
ノモノハ左ノ八件中ノ一ヲ契約スルニテアリ  
トス

第一 共通ノ財産ハ夫婦タル時間買入  
タル財産ノミヲ包含ス可キ事

第二 夫婦現在所有スル動産又ハ後來  
所有ス可キ動産ヲ共通ノ財産中ニ加  
入セサル事又ハ其動産ノ一部ノミヲ

共通ノ財産中ニ加入ス可キ事

第三 不動産ヲ動産ニ等シキモノト看

做ル夫婦現在所有スル不動産又ハ後

米所有ス可キ不動産ノ全部又ハ一部

ヲ共通ノ財産中ニ包含ス可キ事

第四 夫婦婚姻ノ前ニ負フ債ノ各

自ニ拂フ可キ事

第五 財産ノ共通ヲ解除スル時其財産

ヲ受ケルコトヲ肯セサル婦嘗テ其共通

ノ財産中ニ加入シタル物件ヲ取戻シ

共通ノ債ヲ全ク擔當セサル事

第六 夫婦中ノ後ニ生存スル者其財産ノ分派ヲ為ス前ニ或ル財産又ハ金高ヲ預メ己ニ引取ル可キ事

第七 夫婦其財産ヲ分派スル時互ニ平等ナラサル部分ヲ得可キ事

第八 夫婦ノ間ニ其財産ノ全部ヲ共通ス可キ事

○第一款 夫婦タル時間買入レタル財産ノミヲ共通スル事

第一千四百九十八條 夫婦トナル時間買入レタル

財産ノミヲ共通ス可キ契約ヲ為シタル時

ハ現在後來ノ別ノク夫婦ノ負フタル債ト其

雙方ノ動産買入レタルトヲ共通財産ノ中ヨ

リ除キタルト為ス可シ

此場合ニ於テハ財産ノ共通ヲ解除スル時夫

婦各其共通ノ財産中ニ入レシ證アル物件ヲ

預シメ己ニ引取リタル後嘗テ夫婦ノ協力ニ

又ハ夫婦其財産ノ入額ヲ互ニ節約シテ夫婦

タル時間共ニ買入レタル財産又ハ各自ニ買

入レタル財産ノミヲ分派ス可シ

第一千四百九十九條 婚姻ヲ結ヒタル時既ニ存  
在シタル動産又ハ婚姻ヲ結ヒタル後遺物相  
續又ハ贈遺ニ因リ得タル動産ヲ相當ノ目錄  
ヲ以テ證明セサル時ハ之ヲ婚姻ヲ結ヒタル  
時間買入タル財産ニ等シキモノト看做ス可  
シ

○第二款 動産ノ全部又ハ一部ヲ共

通ノ財産中ニ加入セサル契約

第一千五百條 夫婦ハ其現在所有スル動産又ハ

後來所有ス可キ動産ノ全部ヲ共通ノ財産中

ニ加入セサルヲ得可シ

又夫婦定マリシ價ニ至ル迄其動産ヲ互ニ共

通ノ財産中ニ加入セント為スヲ約シタル

時ハ其餘ノ動産ヲ己ノ所有ト為シ保チタル

モノト看做ス可シ

第一千五百一條 此契約アル時ハ夫又ハ婦其共

通ノ財産中ニ加入セント約セシ價ノ動産又

ハ金高ヲ共通ノ財産中ニ拂ノ可キノ義務ヲ

負ヒ且其動産ヲ既ニ共通ノ財産中ニ加入シ

タルヲ證ス可シ

第一千五百二條 夫ニ付テハ婚姻ノ契約書ニ其  
動産ハ幾許ノ價タルヤヲ記シタルヲ以テ其  
動産ヲ共通ノ財産中ニ加入シタルヲ證アリ  
トス

婦ニ付テハ夫ヨリ婦ニ渡シタル受取書又ハ  
其婦ニ嫁資ヲ贈與シタル者ニ渡シタル受取  
書ヲ以テ其婦ノ動産ヲ共通ノ財産中ニ加入  
シタルノ證アリトス

第一千五百三條 夫婦婚姻ヲ結ビシ時共通ノ財

産中ニ加入シタル動産又ハ其後遺物相續又  
ハ贈遺ニ因リ得タル動産ノ價嘗テ共通ノ財  
産中ニ加入ス可シト約シタル動産ノ價ニ過  
キタル時ハ其財産ノ共通ヲ解除スル時分派  
ノ前ニ其過分ノ價ヲ預メ己ノ方ニ引取ルノ  
權アリ

第一千五百四條 夫婦タル時間夫又ハ婦贈遺又  
ハ遺物相續ニ因リ得タル動産ハ目錄ヲ以テ  
之ヲ證明ス可シ  
夫贈遺又ハ遺物相續ニ因リ得タル動産ノ目

録ヲ記セサル時又ハ其動産ノ現存スル事ト  
 其債ヲ差引タル其價トヲ證明ス可キ證書ヲ  
 記セサル時ハ其夫共通財産分派ノ前ニ其動  
 産ヲ引取ル可カラス  
 又婦遺物相續又ハ贈遺ニ因リ得ル動産ノ  
 目錄ヲ記セサル時ハ其婦又ハ其相續人證書  
 又ハ證人又ハ人ノ通知スル評説ニ因リ其動  
 産ノ價ヲ證スルコトヲ得可シ

○第三款 不動産ヲ動産ト看做ス契

約

第一千五百五條 夫婦又ハ夫婦中一方ノ者其現  
 在所有スル不動産又ハ後來所有ス可キ不動  
 産ノ全部又ハ一部ヲ共通ノ財産中ニ加入ス  
 可キトヲ契約シタル時ハ其契約ヲ名クテ不  
 動産ヲ動産ト看做ス契約ト云フ

第一千五百六條 不動産ヲ動産ト看做ス事ハ或  
 ハ定マリシモノアリ或ハ定マラサルモノア  
 リ  
 夫婦別段定メタル一箇ノ不動産ノ全部又ハ  
 別段定メタル不動産ノ或ル價ニ至ル迄ノ一



部ヲ動産ト看做シテ之ヲ共通ノ財産中ニ入  
 レント述フル時ハ不動産ヲ動産ト看做ス事  
 ノ定マリタルモノトス  
 夫婦或ル價ニ至ル迄不動産ヲ共通ノ財産中  
 ニ入ル可シト述ヘ別ニ其不動産ヲ定メタル  
 事ナキ時ハ不動産ヲ動産ト看做ス事ノ定マ  
 ラサルモノトス  
 第一千五百七條 不動産ヲ動産ト看做ス事ノ定  
 マリシモノタル時ハ其一箇ノ不動産又ハ數  
 箇ノ不動産ヲ動産ニ等シク共通財産中ノ物

ト為スノ効アリ  
 婦別ニ定メタル一箇ノ不動産又ハ數箇ノ不  
 動産ノ全部ヲ動産ト看做シタル時ハ其夫其  
 不動産ヲ共通ノ動産ノ如ク取扱ヒ其全部ヲ  
 賣拂フコトヲ得可シ  
 婦別段定メタル不動産ノ或ル價ニ至ル迄ノ  
 一部ヲ動産ト看做シタル時ハ夫其婦ノ承諾  
 ヲ得スシテ之ヲ賣拂フコトヲ得ス但シ夫ハ婦  
 ノ不動産ヲ動産ト看做シタル一部ニ至ル迄  
 ヲ其婦ノ承諾ナクシテ「イポテ」ト為ス

ヲ得可シ

第一千五百八條 不動産ヲ動産ト看做ス事ノ定  
 マラサルモノタル時ハ其不動産所有ノ權ヲ  
 共通ノ財産中ニ加入スルヲナク唯其事ヲ承  
 諾シタル夫又ハ婦ヲシテ財産ノ共通ヲ解除  
 スル時其嘗テ約シタル價ニ至ル迄自己ハ不  
 動産ヲ財産ノ合部中ニ加入セシム可キ義務  
 ヲ生スルモノトス

此場合ニ於テハ夫前條ニ記シタル如ク婦ノ  
 動産ト看做シタル不動産ノ全部又ハ一部ヲ

其婦ノ承諾ナク賣拂フヲ得ス然ル夫其婦  
 ノ動産ト看做シタル價ニ至ル迄ノ不動産ヲ  
 引ボテト爲スヲ得可シ

第一千五百九條 不動産ヲ動産ト看做シタル夫  
 又ハ婦ハ共通ノ財産分派ノ時其得可キ部分  
 中ヨリ同上ノ不動産ノ當時ノ價ヲ差引キテ  
 其不動産ヲ己ニ保有スルヲ得可シ但シ其  
 遺物相續人モ亦同一ノ權アリ

○第四款 夫婦其債債婚前ノ各自  
 ニ拂フ可キ契約

第一千五百十條 夫婦其債ヲ各自ニ拂ノ可キ契  
 約アル時ハ其債ヲ負フタル夫又ハ婦ノ為メ  
 共通ノ財産中ヨリ償フタルノ證アル諸件ヲ  
 財産共通解除ノ時一至リ其夫又ハ婦ヨリ共  
 通ノ財産中ニ算計ス可キノ義務アリ  
 夫又ハ婦ノ動産ノ目錄ノ有無ヲ問ハヌ其夫  
 又ハ婦前ニ記スル所ノ如キ義務ヲ負フ可キ  
 但シ夫婦婚姻ヲ結ビタル時其共通ノ財産中  
 ニ加入シタル動産ヲ目錄又ハ婚姻前ニ記シ  
 タル公正ノ證書ヲ以テ證明セサル時ハ夫又

ハ婦ノ債主夫婦其動産所有ノ權ノ相異ナル  
 旨ヲ述フルニ管セヌ共通ノ動産并ニ目錄ヲ  
 記セサル一方ノ動産ヲ以テ其債ノ償ニ充ツ  
 可キノ訴ヲ為スノ權アリ  
 又夫又ハ婦其財産ヲ共通スル時間遺物相續  
 又ハ贈遺ニ因リ得タル動産ノ目錄又ハ公正  
 ノ證書ヲ記セサル時ハ其債主亦前ニ記スル  
 所ニ等シキ權ヲ有スルモノトス  
 第一千五百十一條 夫又ハ婦別段定メタル金高  
 又ハ物件ヲ共通ノ財産中ニ加入スル時ハ其

金高又ハ物件ニ付キ婚姻前ノ債ヲ擔當スル  
 一ナキ旨ヲ約シタルモノト看做ス可シ但シ  
 夫又ハ婦共通ノ財産中ニ加入セント約シタ  
 ル金高又ハ物件ヲ自己ノ負債ノ為メ減少ス  
 ル一アル時ハ其一方ヨリ他ノ一方ニ其償ヲ  
 為ス可シ

第一千五百十二條 夫婦其債ヲ各自ニ拂フ可キ  
 ノ契約アリト雖モ其婚姻ヲ結ビシ以後ノ其  
 債ノ息銀ヲ共通ノ財産ヲ以テ償フ可キノ差  
 支トナルヲナカル可シ

第一千五百十三條 夫婦中一方ノ者婚姻ノ契約  
 書ニ婚姻前ノ債ヲ全ク滌掃シタル旨ヲ記シ  
 タルニ共通解除ノ時其一方ノ者ノ債主共通  
 ノ財産ヲ以テ其債ヲ償フ可キ旨ヲ訴ヘ共通  
 ノ財産ヲ以テ之ヲ拂フタル時ハ他ノ一方ノ  
 者其債ヲ負フタル一方ノ者ノ共通ノ財産中  
 ヲリ得可キ部分又ハ其者ノ一身ニ屬スル財  
 産ヲ以テ其償還ヲ得可キノ權アリ若シ其債  
 ヲ負フタル一方ノ者ノ共通ノ財産中ヨリ得  
 可キ部分又ハ其一身ニ屬スル財産ヲ以テ其

償還ニ充ルニ足ラサル時ハ他ノ一方ノ者其配偶者ノ負債ナキ旨ヲ述ヘタル父母又ハ尊屬ノ親又ハ後見人ヨリ同上ノ償還ヲ得ント訴フルヲ得可シ又婦其債ヲ負フタル時ハ夫婦財産ヲ共通スル間ト雖ル夫其婦ノ父母又ハ尊屬ノ親又ハ後見人ヨリ同上ノ償還ヲ得ント訴フルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ後ニ夫婦財産ノ共通ヲ解除スル時婦又ハ其遺物相續人ヨリ其父母又ハ尊屬ノ親又ハ後見人ニ其算還ヲ

為ス可キノ義務アリトス

○第五款 夫婦財産ノ共通ヲ解除ス

ル時婦共通ノ債ヲ全ク擔當スル  
トナク其嘗テ共通ノ財産中ニ加入セシ財産ヲ取戻ス可キ事

第一千五百十四條 婦共通ノ財産ヲ受クルトテ

嘗テ婚姻ヲ結ビシ時又ハ其後共通ノ財産中ニ加入シタル財産ノ全部又ハ一部ヲ取戻ス可キノ契約ヲ為ストテ得可シ但シ其契約ハ

別段其書中ニ記シタル財産ノ外ニ之ヲ及ボ  
 シ用フルヲ得ス又別段其書中ニ記シタル  
 ヨリ以外ノ人ニ及ホシ用フルヲ得ス  
 故ニ婦ノ婚姻ヲ結ヒタル時共通ノ財産中ニ  
 加入セシ動産ヲ取戻ス可キヲ約セタル時  
 ハ婚姻ヲ結ヒタル後ニ其婦遺物相續又ハ贈  
 遺ニ因リ得タル動産ニ其約ヲ及ホスヲ得  
 ス  
 又婦其契約ニ因リ同上ノ特權ヲ得タルト雖  
 凡之ヲ其子ニ及ホスヲ得ス又婦及ヒ其子

ノ為メ同上ノ特權ヲ生シタル時ト雖凡其遺  
 物相續人タル尊屬ノ親又ハ傍系ノ親ニ之ヲ  
 及ホスヲ得ス  
 何ノ場合ニ於テモ共通ノ財産ヲ以テ償フタ  
 ル婦ノ一身ニ屬スル債ヲ差引タル上ニ非サ  
 レハ其婦嘗テ共通ノ財産中ニ加入セシ諸件  
 ヲ取戻スヲ得ス

○第六款 夫婦中ノ後ニ生存スル者  
 其財産ノ分派ヲ為ス前ニ或ル財  
 産又ハ金高ヲ預メ己ニ引取ル可

キ契約

第一千五百十五條 夫婦中ノ後ニ生存スル者其  
 共通ノ財産ヲ分派スル前ニ或ル金高又ハ動  
 産ヲ預メ己ニ引取ル可キノ契約アリト雖モ  
 夫ヨリ後ニ生存スル婦財産ノ共通ヲ受クル  
 一ヲ肯シタル時ニ非サレハ其婦ノ為メニ同  
 上ノ權ヲ生スル一ナカル可シ但シ婚姻ノ契  
 約書ニ縱令其婦共通ノ財産ヲ受クル一ヲ肯  
 セサルト雖モ同上ノ權ヲ有ス可キ旨ヲ別段  
 記シタル時ハ格別ナリトス

婚姻ノ契約書ニ婦同上ノ權ヲ有ス可キ事ヲ  
 別段記シタル時ノ外婦ハ分派ヲ為ス可キ共  
 通財産ノ合部中ヨリ其動産又ハ金高ヲ己ニ  
 引取ル可ク先ニ死去シタル夫ノ一身ニ屬ス  
 ル財産中ヨリ之ヲ引取ル可カラス

第一千五百十六條 夫婦中ノ後ニ生存スル者財  
 産ノ分派ヲ為ス前ニ金高又ハ動産ヲ預メ己  
 ニ引取ル可キノ權ハ贈遺ノ規則ニ管シタル  
 モノト看做ス可カラズ婚姻ノ契約ニ因リ生  
 レタルモノト看做ス可シ

第一千五百十七條 夫婦中一方ノ死去又ハ准死ニ因リ他ノ一方ノ為メ同上ノ權ヲ生ス可シ

第一千五百十八條 若シ離婚ニ因リ又ハ夫婦居ヲ分ツニ因リ財産ノ共通ヲ解除シタル時ハ其一方ノ者財産ノ分派ヲ為ス前ニ同上ノ權ニ因リ動産又ハ金高ヲ現ニ己ニ引取ル事ヲ得ス但シ此場合ニ於テ離婚又ハ分居ヲ得タル一方ノ者他ノ一方ノ者ヨリ後ニ生存スル時ハ同上ノ權ヲ行フコトヲ得可シ

○若シ婦離婚又ハ分居ヲ得タル時ハ其婦同上ノ權ニ因

リ得可キ金高又ハ財産ヲ假リニ夫ノ所有ト為シ置キ夫ヲシテ其保證人ヲ立テシム可シ

第一千五百十九條 共通財産ノ債主ハ第一千五百十五條ニ記スル所ニ循ヒ夫婦中一方ノ者共通財産ノ分派ヲ為ス前ニ預メ引取ル可キ財産ヲ賣拂フ可キノ權アリ但シ此場合ニ於テハ其一方ノ者共通ノ財産中ヨリ償還ヲ得可キノ求メ為スコトヲ得可シ

○第七款 夫婦共通ノ財産中ニテ互ニ均シカラサル部分ヲ得可キノ



契約

第一千五百二十條 夫婦ハ後ニ生存スル一方ノ者又ハ其遺物相續人ニ共通財産ノ半ヨリ少ナキ部分ヲ授ケ又ハ共通ノ財産ヲ得可キ權ニ代ヘ定マリシ金高ノミヲ授ケ又時トシテハ夫婦中ノ生存スル者又ハ夫婦中ノ特ニ定メタル一方ノミニ共通財産ノ全部ヲ授ケ可キノ契約ヲ為シ法律上ニ定メタル平等ノ分配ノ方法ニ及スルヲ得可シ

第一千五百二十一條 若シ夫婦中一方ノ者又ハ

其遺物相續人共通財産中ノ三分之一又ハ四分  
 一等ノ如ク別段定マリシ一部ノミヲ得可キ  
 契約アル時ハ其一方ノ者又ハ其遺物相續人  
 其得タル部分ニ准レテ共通ノ債ヲ擔當ス可  
 夫婦中一方ノ者又ハ其遺物相續人ヲシテ其  
 共通ノ財産中ヨリ得可キ部分ヨリモ更ニ餘  
 分ノ債ヲ擔當セシムルノ契約又ハ一方ノ者  
 ノ得ル所ノ部分ニ當ル可キ債ヲ擔當ス可キ  
 義務ヲ釋放スルノ契約ハ其効ナカル可シ

第一千五百二十二條 夫婦中一方ノ者又ハ其遺物相續人財産ノ分派ヲ得可キ權ニ代ヘ別段定マリシ金高ノミヲ得可キ契約アル時ハ他一方ノ者又ハ其遺物相續人共通財産ノ利得ト負債トノ多少ヲ問ハス又其共通ノ財産ヲ以テ別段定マリシ金高ヲ與ルニ足ルト足ラサルトヲ問ハス必ス其契約シタル金高ヲ一方ノ者ニ與フ可キノ義務アリトス

第一千五百二十三條 若シ夫又ハ婦ノ遺物相續人ノミニ付キ同上ノ契約スル時其夫又ハ婦

其配偶者ヨリ後ニ生存スルニ於テハ法律ニ循ヒ共通財産ノ半ノ分派ヲ得可シ

第一千五百二十四條 第一千五百二十條ニ記シタル

ル所ニ因リ共通財産ノ全部ヲ保チケル夫又ハ其遺物相續人ハ共通ノ債ヲ全ク擔當ス可シ

此場合ニ於テハ其債主婦又ハ其遺物相續人ニ對シ訴訟ヲ為ス可カラス

若シ夫ヨリ後ニ生存スル婦定マリシ金高ヲ夫ノ遺物相續人ニ與ヘ共通財産ノ全部ヲ已

ニ保ツ可キ權ヲ有スル時ハ其婦共通ノ債ヲ  
 己ニ擔當シテ預定ノ金高ヲ夫ノ遺物相續人  
 ニ與ヘ又ハ共通ノ財産ヲ受クルヲ肯セス  
 シテ共通ノ財産ト負債トヲ其夫ノ遺物相續  
 人ニ任カスルヲ自由タル可シ

第一千五百二十五條 夫婦ハ共通ノ財産ノ全部  
 ヲ後ニ生存ス可キ一方ノ者ノミニ屬ス可キ  
 ノ契約ヲ為スヲ得可シ但シ此場合ニ於テ  
 他ノ一方ノ者ノ遺物相續人ハ其相續ヲ為サ  
 レハル者ノ管テ共通ノ財産中ニ加入ヒシ物

件及ヒ金高ヲ己ニ取戻スヲ得可キノ權ヲ  
 同上ノ契約ハ其本案ニ付テモ其體裁ニ付テ  
 モ贈遺ノ契約ノ規則ニ管シタルモノト看做  
 ス可カラス婚姻ヲ結ビシ者ノ婚姻ノ契約ト  
 リト看做ス可シ

○第八款 夫婦ノ間ニ其財産ノ全部  
 ヲ共通ス可キ事

第一千五百二十六條 夫婦ハ其現ニ所有スルト  
 後ニ所有ス可キトヲ問ハス總テ不動産並ニ

動産ヲ全ク共通ト為シ又ハ其現ニ所有スル  
 不動産並ニ動産ノミヲ共通ト為シ又ハ後ニ  
 所有ト為ス可キ不動産並ニ動産ノミヲ共通  
 ト為スヲ婚姻ノ契約書ヲ以テ預定スル  
 ヲ得可シ

○前ノ八款ニ通シテ用フ可キ規則

第一千五百二十七條 夫婦其財産ヲ共通スル契  
 約ハ必スシモ前ノ八款ニ記シタル規則ノミ  
 ニ限ルヲナカル可シ

夫婦ハ第一千三百八十八條第一千三百八十九條

第一千三百九十條ニ記シタル規則ニ循フ時ハ  
 第一千三百八十七條ニ記セシ如ク前ノ八款ト  
 異ナリタル契約ヲ為スヲ得可シ

然レ夫婦中一方ノ者ニ前婚ノ子アル時他ノ

一方ニ第一千九十八條贈遺ニ定メシ部分ニ過

キタル財産ヲ贈與ス可キ契約ハ其過分ノ財

産ニ付キ總テ其効ナカル可シ但シ夫婦ノ相

與ニ勞動シテ得タル利益又ハ夫婦ノ入額互

ニ均シカラサル時ト雖レ其入額ヲ節約シテ

得タル利益ハ前婚ノ子ノ權利ヲ害ス可キモ

ノナリト看做ス可カラス

第一千五百二十八條 夫婦互ニ其財産ヲ共通スル契約書ニ法律上ニテ定メタル財産共通ノ規則ト異リタル條件ヲ別段約定シ又ハ其契約書ニ同上ノ規則ト異ナリタル條件アルト<sup>キ</sup>自カラ知リ得可キ時ノ外ハ總テ契約ヨリ生シタル財産共通ニ付キ法律上ニ定メタル財産共通ノ規則ヲ用フ可シ

○第九款 夫婦財産ノ共通ヲ除去ス可キ契約

第一千五百二十九條 夫婦嫁資分括ノ法ヲ用フルトナク其財産ヲ共通セズニテ婚姻ヲ結ビ又ハ財産ヲ分別シテ婚姻ヲ結フ<sup>ト</sup>述ヘタル時ハ其契約ノ効ヲ左ノ如ク定ム可シ

○第一節 夫婦其財産ヲ共通セズ婚姻ヲ結フ契約

第一千五百三十條 夫婦財産ヲ共通セズニテ婚姻ヲ結フ契約アリト雖ヒ婦ハ己ノ財産ヲ支配スルノ權又ハ其財産ノ利益ヲ收受スルノ權ヲ有スル<sup>ト</sup>ナシ但シ其財産ノ利益ハ婚姻

ノ費用ニ充ル為メ婦ヨリ夫ニ持テ来リシモ  
ト為ス可シ

第一千五百三十一條 夫ハ其婦ノ動産及ヒ不動  
産ヲ支配シ且其婦ノ嫁資トシテ持テ来リシ  
動産又ハ夫婦タル時間其婦ノ贈遺及ヒ遺物  
相續ニ因リ人ヨリ得タル所ノ動産ヲ已ニ收  
受スルノ權アリ但シ後日婚姻ヲ解ク時又ハ  
裁判所ヨリ夫婦ノ財産ヲ分別ス可キ言渡ヲ  
為シタル時ハ其動産ヲ其婦ニ還與ス可シ  
第一千五百三十二條 婦ノ嫁資トシテ持テ来リ

シ動産又ハ夫婦タル時間婦ノ贈遺又ハ遺物  
相續ノ名義ニテ人ヨリ得タル所ノ動産中ニ  
費耗セスシテ用フルヲ得サル物件アル時  
ハ夫婚姻ノ契約書ニ其物件ノ評價書ヲ添ヘ  
置キ又ハ其婦ノ遺物相續又ハ贈遺ニ因リ人  
ヨリ物件ヲ得タル時其目錄ヲ記シ置キ後日  
夫ヨリ其評價書又ハ目錄ニ記スル所ノ價ヲ  
其婦ニ返還ス可シ  
第一千五百三十三條 夫ハ總テ財産ノ入額ヲ所  
得ト為ス者ノ義務ヲ已ニ擔當ス可シ

第一千五百三十四條 此一節ニ記スル所ノ契約アリト雖ハ婦其生計及ヒ一身ノ入用ノ為メ自己ノ受取書ヲ以テ其財産ノ入額ノ一部ヲ毎歳所得ト為ス可キヲ契約スルノ差支トナルコトナカル可シ

第一千五百三十五條 此一節ニ記スル場合ニ於テ婦ノ嫁資トナシタル不動産ハ之ヲ人ニ賣拂フ可カラサルモノニ非ストス然レ其不動産ハ婦其夫ノ承諾ナクシテ之ヲ人ニ賣拂フコトヲ得ス又夫其事ヲ肯セサル時

ハ裁判所ノ允許ヲ得タル上ニ非サレハ之ヲ賣拂フコトヲ得ス

○第二節 夫婦財産ヲ分別スル契約

第一千五百三十六條 夫婦婚姻ノ契約書ニ其財産ヲ分別ス可キコトヲ約シタル時ハ婦其動産及ヒ不動産ヲ支配スルノ權并ニ其入額ヲ自由ニ所得ト為スノ權ヲ己ニ保ツ可シ

第一千五百三十七條 夫婦ハ婚姻ノ契約書ニ記スル所ニ循ヒ各其夫婦タル時間ノ費用ヲ分

テ擔當ス可シ若シ婚姻ノ契約書ニ別段其事ヲ記セサル時ハ婦自己ノ入額ノ三分一ニ至ル迄其費用ヲ擔當ス可シ

第一千五百三十八條 何ノ場合ニ於テモ如何ナル契約アルヲ問ハス婦ハ其夫ノ許諾ヲ得スシテ其不動産ヲ人ニ賣拂フコトヲ得ス又夫其事ヲ肯セサル時ハ裁判所ノ允許ヲ得タル上ニ非サルハ其不動産ヲ賣拂フコトヲ得ス婚姻ノ契約書ニ因リ又ハ婚姻ノ契約書ヲ記シタル後夫其婦ニ總テ其不動産ヲ隨意ニ賣

拂フ可キコトヲ許可シタルト雖モ其許可ノ効ナカル可シ

第一千五百三十九條 夫ト財産ヲ分別シタル婦其財産ノ利益ヲ所得トスルノ權ヲ其夫ニ委子タル時ハ夫其婦ヨリ別段求メテ受タル時又ハ婚姻ヲ解キタル時現存スル利益ノミヲ其婦ニ還ス可シ其時ニ至ル迄既ニ費シタル利益ハ之ヲ算計スルニ及ハス

○第三章 嫁資ヲ分括スル法

第一千五百四十條 嫁資トハ第二章ニ記スル所



ニ於テモ此章ニ記スル所ニ於テモ亦婦其夫  
婦タル時間ノ費用ニ充ツ可キ為メ夫ノ方ニ  
持チ来リシ財産ヲ云フ

第一千五百四十一條 婦自ガテ嫁資ト為シタル  
物件又ハ婚姻ノ契約書ニ因テ婦ノ父ヨリ贈  
遺トシテ得タル物件ハ別段ノ契約アル時ノ  
外之ヲ嫁資ニ括ノ法ヲ以テ設置ス可シ  
第九十條見合

○第一款 財産ヲ嫁資ト為ス事

第一千五百四十二條 婦ハ現ニ所有スル財産並

ニ後ニ所有ト為ス可キ財産ノ全部ヲ嫁資ト  
為シ又ハ現ニ所有スル財産ノ全部ノミヲ嫁  
資ト為シ又ハ現ニ所有スル財産並ニ後ニ所  
有ト為ス可キ財産ノ一部ヲ嫁資ト為シ又ハ  
一個ノ品物ノミヲ嫁資ト為スヲ得可シ  
泛博ノ詞ヲ用ヒ婦ノ財産ヲ盡ク嫁資ト為ス  
可キヲ契約書ニ記シタル時ハ婦ノ後ニ所  
有ト為ス可キ財産ヲ包含スルヲナカル可シ  
第一千五百四十三條 夫婦タル時間ハ婦新タニ  
其財産ヲ嫁資ト為スヲ得ス又預メ嫁資ト

為シタル財産ノ量ヲ増スルヲ得ス

第一千五百四十四條 父母各其女ニ嫁資トシテ  
 與フ可キ部分ヲ定ムルトナク相與ニ之ヲ贈  
 與シタル時ハ雙方平等ノ部分ヲ贈與シタル  
 ト為ス可シ

父一人ニテ其女ニ嫁資ヲ與フルトテ約シタ  
 ル時ハ縱令父ト母トノ權利ヲ以テ之ヲ與フ  
 ルノ名義アリト雖モ其母ノ立會ノ有無ヲ問  
 ハス父一人ニテ其約束ノ如ク執行フトテ擔  
 當ス可シ

第一千五百四十五條 父母ノ中後ニ生存スル者

ヨリ死者ノ財産ト自己ノ財産トヲ以テ其女  
 ニ嫁資ヲ與フ可キヲ約シ死者ノ部分ト自  
 己ノ部分トヲ別段定メタルトナキ時ハ其女  
 前ニ死シタル父又ハ母ノ財産中ヨリ其遺物  
 トシテ自己ノ得可キ部分ヲ先ツ嫁資トシテ所  
 得ト為シ其餘ハ嫁資ヲ與フルトテ約シタル  
 父又ハ母ノ財産中ヨリ所得ト為ス可シ

第一千五百四十六條 父母ヨリ嫁資ヲ得可キ女  
 自己ニ屬スル財産ヲ所有シ父母其入額ヲ所

得ト為スト雖モ父母ノ財産中ヨリ其嫁資ヲ  
得可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別  
ナリトス

第一千五百四十七條 嫁資ヲ與フル者ハ其嫁資

トシテ贈與スル財産ヲ保證ス可レ

第一千五百四十八條 嫁資ヲ與フ可キ期限ヲ別

段定メタル時ト雖モ其嫁資ヲ與ヘント約シ

タル者ハ夫婦トナル可キ者ノ婚姻ヲ結ビシ

以來其嫁資ノ財産ニ付テノ銀息ヲ拂フ可シ

但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリト

○第二款 嫁資ノ動産ニ付テノ夫ノ

權及ヒ嫁資ノ不動産ヲ賣拂フ可

カラサル事

第一千五百四十九條 夫婦タル時間ハ夫一人ニ

テ嫁資ノ財産ヲ支配スルノ權アリ

又夫ハ其婦ニ嫁資ヲ與フ可キ者又ハ其嫁資

ノ財産ヲ占有スル者ニ對シテ訴訟ヲ為シ又

ハ嫁資ノ財産ノ利益ヲ收受シ及ヒ嫁資ノ金

高ク人ヨリ償還セシムルノ權アリ

然氏婦ハ其生計及ヒ一身ノ入用ノ為メ自己ノ受取書ヲ以テ其財産ノ入額ノ一部ヲ毎歲所得ト為ス可キヲ婚姻ノ契約書ヲ以テ約スルヲ得可シ

第一千五百五十條 夫ハ婦ヨリ嫁資ヲ受取ルニ付キ別ニ保證人ヲ立ルニ及ハス但シ婚姻ノ契約書ニ別段其保證人ヲ立ツ可キヲ定メタル時ハ格別ナリトス

第一千五百五十一條 嫁資ノ財産ノ全部又ハ一部婚姻ノ契約書ニ其價ヲ定メタル動産ニシ

テ其價ヲ定ルト雖ル之ヲ夫ニ賣渡スヲナキ旨ヲ特ニ記セサル時ハ夫其所有者トナリ其代金ノミヲ婦ニ償フ可トノ義務アリトス

第一千五百五十二條 嫁資ノ財産中ノ不動産ヲ評價シタルト雖ル夫ニ其不動産所有ノ權ヲ移スヲナカル可シ但シ契約書ニ其權ヲ夫ニ移ス可キヲ特ニ記シタル時ハ格別ナリトス

第一千五百五十三條 嫁資ノ金高ヲ以テ買入レタル不動産ハ婚姻ノ契約書ニ其金高ヲ利益

トナル可キ方法ニ用フルニ付テノ條件ヲ定  
 メタル時ノ外之ヲ嫁資ノ財産ナリトセス由  
 ニ賣拂ヒ得可キヲ  
 云フ後條見合セフ  
 又嫁資ノ金高ノ償トシテ之ニ代ハ與ヘタル  
 不動産モ亦同一ナリトス

第一千五百五十四條 嫁資ト為シタル不動産ハ  
 夫婦タル時間夫又ハ婦各自ニ又ハ夫婦連合  
 シテ之ヲ人ニ賣拂ヒ又ハ贈與シ又ハコイボテ  
 一ト為スコトヲ得ス但シ後ノ數條ニ記スル  
 所ハ格別ナリトス

第一千五百五十五條 婦ハ其夫ノ許諾ヲ得タル  
 上又其夫ノ許諾セサル時ハ裁判所ノ允許ヲ  
 得タル上ニテ前婚ノ子ニ産業ヲ定メシムル  
 為メ其嫁資ノ財産ヲ贈與スルコトヲ得可シ但  
 シ夫ノ許諾ヲ得ルコトナク裁判所ノ允許ヲ以  
 テ其嫁資ノ財産ヲ前婚ノ子ニ贈與セタル時  
 ハ其財産入額所得ノ權ヲ其夫ニ屬セシム可  
 シ

第一千五百五十六條 又婦ハ夫ノ許諾ヲ得タル  
 上ニテ其夫婦ノ間ニ生レタル子ニ産業ヲ定

ノレムル為メ其嫁資ノ財産ヲ贈與スルコトヲ得可レ

第一千五百五十七條 嫁資ノ不動産ヲ人ニ賣拂

ヒ又ハ贈與スルヲ得可キ旨ヲ婚姻ノ契約書

ニ記シタル時ハ其賣拂又ハ贈遺ヲ為スコトヲ

得可シ

第一千五百五十八條 又左ノ數箇ノ場合ニ於テ

ハ嫁資ノ不動産ヲ裁判所ノ允許ヲ得タル上

三次ノ貼附ヲ為シタル後之ヲ糶賣ニ為スコト

ヲ得可シ

第一 夫又ハ婦ヲ獄舎ヨリ出テシムル為メ

第二 第二百三條第二百五條第二百六

條 婚姻ニ定メタル場合ニ於テ親族ニ

養料ヲ給與スル為メ

第三 婚姻ノ契約ヲ為ス以前ニ負ノク

ル日附ノ儘ナル婦ノ債又ハ婦ニ嫁資

ヲ與ヘシ者ノ債ヲ拂フコトノ為メ

第四 嫁資ノ不動産ヲ保全スルニ付キ

必要ナル修理ヲナス為メ

第五 嫁資ノ不動産ヲ他人ト共通シテ  
 所有シ之ヲ分別ス可カラサルコトノ分  
 明ナル時

此諸般ノ場合ニ於テ其不動産ヲ賣拂ヒ得タ  
 ル金高中ニテ必要ノ高ニ過キタル部分ハ之  
 ヲ婦ノ嫁資ノ一部ト為シ婦ノ為メニ利益ト  
 ナル可キ方法ニ用フ可シ

第一千五百五十九條 嫁資ノ不動産ヲ婦ノ承諾  
 ヲ得タル上之ト同一ノ價アル他ノ不動産又  
 ハ其價ノ五分ノ四ニ下ラサル他ノ不動産ト

交換スルニハ其交換ノ利益アルコトヲ證シ且  
 裁判所ノ允許ヲ得タル上其裁判所ノ公務ヲ  
 以テ任レタル評價人ヲシテ其評價ヲ為サシ  
 ムルコトヲ必要トス

此場合ニ於テハ交換レテ得タル不動産ヲ嫁  
 資中ノ物トナシ又前ノ不動産ノ價後ノ不動  
 産ノ價ニ過キタル時ハ其過キタル價高ヲモ  
 亦嫁資中ニ加入シテ婦ノ為メニ利益トナル  
 可キ方法ニ用フ可シ

第一千五百六十條 前數條ニ記シタル格別ノ場

合ノ外婦又ハ夫各自ニ又ハ夫婦連合シテ嫁  
 資ノ不動産ヲ賣拂ヒタル時ハ婦又ハ其遺物  
 相續人婚姻ヲ解キ後其賣拂ノ契約ヲ取消  
 スコトヲ得可シ但シ其不動産ヲ買入タル者ハ  
 プレスタクリブシヨシ此篇第二十一卷ニ詳ナリノ權ヲ申述  
 ヘテ其婦又ハ其遺物相續人ノ權利ヲ害スル  
 コトヲ得ス○又婦ハ夫ト財産ヲ分チタル時モ  
 亦同一ノ權アリ  
 夫ハ嫁資ノ不動産ヲ賣拂フタル契約書中ニ  
 其不動産婦ノ嫁資ニ属スルコトヲ別段記シタ

此時ノ外之ヲ買入タル者ノ損失ヲ償ハスシ  
 テ其賣拂ノ契約ヲ取消ス可カラス  
 第一千五百六十一條 婚姻ノ契約書ヲ以テ人ニ  
 賣拂フコトヲ得可キ旨ヲ別段定メタル以外ノ  
 嫁資ノ不動産ハ縱令之ヲ寄有スル者アリト  
 雖ル夫婦其縁ヲ結フ時間其寄有者<sup>レ</sup>プレスタ  
 リプレシヨシノ權ヲ得ルコトヲ得ス但シ夫婦婚  
 姻ヲ結フ前ニ寄有者ノ為メ既ニ<sup>レ</sup>プレスタリ  
 プシヨシノ期限ノ始マリタル時ハ格別ナリ  
 トス



又夫婦財産ヲ分チタル後ハ其寄有者ノ為メ  
アレスクリプシヨシノ期限ノ始マリタル期  
日ノ如何ナルヲ問ハス其寄有者其不動産ニ  
付キ同上ノ權ヲ得可シ

第一千五百六十二條 夫ハ嫁資ノ財産ニ付キ總  
テ入額所得者ノ義務ヲ擔當ス可シ  
夫ハ其怠リニ因リ嫁資ノ財産ニ付キ人ニ  
レスクリプシヨシノ權ヲ得セシメ又ハ其財  
産ヲ卑惡ニ為シタル時ハ自カラ其責ニ任ス  
可シ

第一千五百六十三條 婦嫁資ノ財産ヲ失フ可キ  
ノ恐アル時ハ第一千四百四十三條以下數條ニ  
記シタル如ク夫ト財産ヲ分タシトスルノ訴  
ヲ為スヲ得可シ

○第三款 嫁資ヲ返還スル事

第一千五百六十四條 嫁資ノ不動産ナル時又ハ  
婚姻ノ契約書ニ其價ヲ定メサル動産ナル時  
又ハ其價ヲ定ムルト雖モ婦其所有ノ權ヲ失  
ハサル旨ヲ別段定メタル動産ナル時ハ婚姻  
ヲ解キシ後夫又ハ其遺物相續人ヨリ遲延ナ

其嫁資ヲ返還ス可シ  
 第一千五百六十五條 又嫁資ノ金高ナル時又ハ  
 價ヲ定ムルト雖モ婦其所有ノ權ヲ失ハサル  
 旨ヲ別段定メタルトナキ動産ナル時ハ夫又  
 ハ其相續人夫婦婚姻ヲ解キシヨリ一年內ニ  
 之ヲ返還スルニ及ハス  
 第一千五百六十六條 婦ノ所有スル動産其夫ノ  
 過失ニ非ラス唯夫ノ之ヲ用ヒタルノ由ニ因  
 リ損敗シタル時ハ後ニ存レタル其一部ヲ其  
 時ノ模様ノ儘返還ス可シ

然モ何ノ場合ニ於テモ婦ハ自己ノ入用ノ為  
 メ麻布類及ヒ衣服類ヲ己ニ取戻スルヲ得可  
 シ但シ婚姻ノ契約書ニ其物件ノ價ヲ定メタ  
 ル時ハ婦己ニ取戻ス可キ諸件中ニテ其價ヲ  
 減ス可シ

第一千五百六十七條 婦ノ人ヨリ得可キ義務又  
 ハ年金ヲ嫁資ト為シ夫ノ怠リニ非スレテ其  
 義務又ハ年金ヲ全ク失フニ至リ又ハ之ヲ減  
 損シタル時ハ夫其責ニ任スルトナク唯其義  
 務又ハ年金ノ契約書ヲ返還ス可シ

第一千五百六十八條 財産ノ入額所得ノ權ヲ嫁  
 資ト為シタル時ハ夫又ハ其遺物相續人婚姻  
 ヲ解ク時ニ至リ唯其入額所得ノ權ヲ返還ス  
 可ク夫婦タル時間得タル所ノ入額ヲ返還ス  
 ルニ及ハス

第一千五百六十九條 人ヨリ婦ニ嫁資ヲ與ヘシ  
 ト約シタル期限ノ後十年ノ間夫婦トナリタ  
 ル上ニテ婚姻ヲ解キタル時ハ其婦又ハ其遺  
 物相續人其嫁資ヲ夫ノ既ニ受取リシ旨ヲ證  
 スルニ及ハスレテ其嫁資トナシタル財産ヲ

其夫ヨリ取戻スルヲ得可レ但シ夫其嫁資ヲ  
 得可キ為メ如何ニ力ヲ竭シタルト雖モ終ニ  
 之ヲ得ルヲ能ハサル旨ヲ證セシ時ハ格別ナ  
 リトス

第一千五百七十條 婦ノ死去ニ因リ婚姻ヲ解キ  
 シ時ハ其婦ノ遺物相續人其婚姻ヲ解キシ日  
 以來ノ嫁資ノ息銀及ヒ利益ヲ取戻スノ權アリ  
 又夫ノ死去ニ因リ婚姻ヲ解キシ時ハ其婦一  
 年ノ喪中其嫁資ノ息銀ヲ得又ハ其一年ノ時

問夫ノ遺物中ヨリ養料ヲ得ル事自由ナリト  
 ス但レ此ニ箇中何ノ場合ニ於テモ其一年間  
 婦ノ住居スル家屋ノ借賃ト其喪服ノ費用ト  
 ハ夫ノ遺物財産中ヨリ其婦ニ之ヲ供給ス可  
 クレテ其婦ノ得可キ嫁資ノ息銀中ヨリ之ヲ  
 差引ク可カラス

第一千五百七十一條 婚姻ヲ解キレ時ハ其最終  
 ノ一年中ニテ其婚姻ヲ解カサリレ時間ノ長  
 短ニ准レ嫁資ノ不動産ノ利益ヲ夫及ヒ婦又  
 ハ其遺物相續人等ノ間ニ分ツ可シ

其一年ノ時間ハ嘗テ婚姻ヲ行フタル日ヨリ  
 之ヲ算ス可レ

第一千五百七十二條 婦及ヒ其遺物相續人ハ嫁  
 資ヲ取戻スニ付キ自己ヨリ前ニ夫ノ不動産ヲ  
 質ト為レ得タル債主ニ先チ夫ノ不動産ヲ  
 已ニ得可キ「ブリタレ」ノ權ナシ

第一千五百七十三條 父其女ニ嫁資ヲ與ヘタル  
 時其夫既ニ已ノ負債ヲ償フテ能ハス且技藝  
 職業ナキ者タル時夫其嫁資ヲ費シタルニ於  
 テハ婦其夫ノ遺物相續人ヨリ償ヲ得可キノ

權ノミヲ父ノ遺物中ニ返還ス可シ  
然レ夫婚姻ノ後負債ヲ償フヲ能ハサル者ト  
ナリ又ハ夫財産ヲ有セスト雖レ之ニ代フ可  
キ技藝職業アル時ハ其嫁資ノ損失ヲ其婦自  
己ニ擔當ス可シ

○第四款 嫁資外ノ婦ノ財産

第一千五百七十四條 嫁資ト為サ、ル婦ノ財産  
ハ總テ之ヲ嫁資外ノ財産ト云フ  
第一千五百七十五條 婦ノ財産盡ク嫁資外ノ財  
産ニテ夫婦トナル時間ノ費用ノ中幾許ヲ

其婦ノ擔當ス可キヤヲ婚姻ノ契約書ニ別段  
定メタルトナキ時ハ其婦己ノ入額ノ三分一  
ニ至ル迄ヲ其婚姻ノ費用トシテ出ス可シ

第一千五百七十六條 婦ハ其嫁資外ノ財産ヲ支  
配シ且其入額ヲ所得ト為スノ權アリ

然レ婦ハ夫ノ承諾ヲ得タル上又夫ノ承諾ニ  
サル時ハ裁判所ノ允許ヲ得タル上ニ非サレ  
ハ其財産ヲ人ニ賣拂ヒ又ハ贈與スルヲ得  
ス又其財産ニ付キ訴訟ノ原告又ハ被告トナ  
ルヲ得ス

第一千五百七十七條 婦其嫁資外ノ財産ヲ己ニ代テ支配ス可キノ權ヲ其夫ニ授ケ其財産ノ利益ヲ己ニ算計セシムルヲ契約レタル時ハ其夫總テ其他ノ名代人名代人ノ事ハ此篇ニ等シク其婦ニ對シ其算計ヲ為スノ義務ヲ擔當ス可シ

第一千五百七十八條 若シ夫別段其婦ノ名代人タル可キノ契約ナク唯其婦ノ阻拒セサルニ因リ嫁資外ノ財産ノ利益ヲ所得ト為シタル時ハ其婚姻ヲ解ク時ニ至リ又ハ婦ヨリ求メ

ヲ受ケタル時ニ至リ現存スル利益ノミヲ還ス可ク既ニ費シタル利益ヲ算計スルニ及ハス

第一千五百七十九條 又夫其婦ノ阻拒シタルニ管セズ嫁資外ノ財産ノ利益ヲ所得ト為シタル時ハ其夫既ニ費シタル利益ト現存スル利益トヲ皆其婦ニ算計ス可シ

第一千五百八十條 婦ノ嫁資外ノ財産ノ利益ヲ所得ト為ス夫ハ總テ入額所得者ノ義務ヲ負フ可シ

○格別ノ規則

第一千五百八十一條 夫婦嫁資分括ノ法ニ循テ  
 婚姻ヲ為スト雖ル夫婦タル時間買入タル不  
 動産ヲ共通ス可キノ約ヲ為スヲ得可シ但  
 シ其共通ヨリ生スル諸件ハ第一千四百九十八  
 條及ヒ第一千四百九十九條ニ記シタル所ニ循  
 フ可シ

辻士華華受

佛蘭西民法十一終  
法律書

